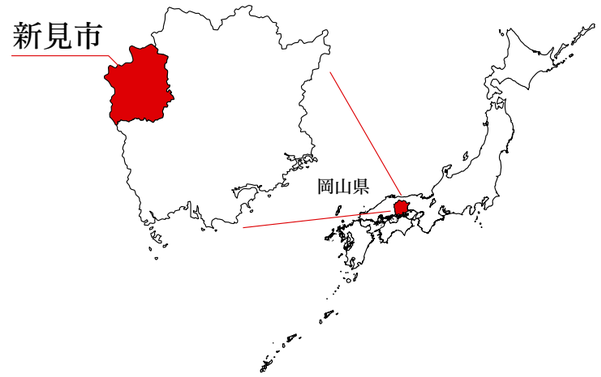

新　見　市

人と自然が共生し、新たな魅力が日々生まれる新見市。
「新」化し続けるこのまちで、
心豊かな新しい暮らしを見つけよう。

新見市の沿革

新見市は、古代の律令制のもと、高梁川の東側を阿賀郡、西側を哲多郡と呼び、明治のはじめまで砂鉄を溶かすたたら製鉄が盛んに行われていました。

平安時代末期になると、新見庄、永富保などの荘園が整備され、江戸時代には、新見藩、備中松山藩、天領に分割されました。

その後、明治の廃藩置県、昭和の大合併を経て、２００５年に旧新見市、大佐町、神郷町、哲多町、哲西町の１市４町が思いをひとつに合併し、現在の新見市が誕生しました。

▲たまがき書状

国宝に指定されている東寺百合文書（左）は京都・東寺に残る古文書群で、8～18世紀のさまざまな事柄が記録されています。この中には、たまがき書状（右）など新見庄に関するものが約2000通含まれています。

Niimino-sho Domain: Thriving as a major temple territory of Kyoto around the end of the 12th century, Niimi is renowned as an area that prospered during the Japanese Middle Ages.

CONTENTS

新見庄 P.2
故きを温ねて「新」しきを知る P.3
新見市ゆかりの偉人 P.4
新学 P.5
先進的な教育 P.9
新見公立大学 P.11
人が集う文化施設 P.13
充実したスポーツ環境 P.15
クアオルト®健康ウオーキング P.17
A級の誇り 新見市 P.19
自然と時が生んだ絶景と恵み P.25
新見暮らし P.27
NIIMI CITY MAP P.29
インフォメーション P.30

京都東寺の荘園

新見庄は備中国北部、新見市西方付近から千屋地域、神郷高瀬に広がる大きな荘園で、平安時代末期に最勝光院領となり、鎌倉末期から戦国時代までは京都東寺の荘園でした。

当時の特産品は、鉄、紙、漆、蝋など。現存する江原八幡神社は、守護の勢力に抵抗した備中の土一揆の決起集会が行われた場所です。また、１９９７年に国宝に指定された「東寺百合文書」（京都府立京都学・歴彩館所蔵）には新見庄関係の文書が多数残っており、専門家などに『古代が飛鳥で代表されるなら、中世を代表するのは新見である』と称されています。

備中の土一揆の決起集会が行われた江原八幡神社。16世紀に入ると、守護の支配力が衰退し、地元の土豪・農民を中心とした土一揆が頻発しました。

新見庄

にいみのしょう

▼東寺五重塔

たまがき像（左）と祐清像（右）。たまがきは、東寺から直務代官として着任した僧侶・祐清の死を嘆き、自らの恋情をつづりました。

▲東寺百合文書